

安全で安心なくらしを支える社会インフラ の維持管理と情報通信技術の活用

開催概要

定員
100名

参加費無料

日時

平成26年3月11日(火)
13:30 ~ 17:35 (17:40 ~ 交流会)

会場

関西大学 東京センター <会場詳細は裏面参照>

プログラム

東日本大震災による大規模地震津波災害(2011.3.11)、笹子トンネル天井板落下事故(2012.12.2)等、これまで経験したことのない災害が発生しています。それらは予見不可能という側面と共に、社会インフラについては日頃からの維持管理を行うことで、また様々な形で情報通信技術を活用することにより、安全で安心なくらしを支えることが可能となります。本セミナーでは、このような背景の中、社会インフラの維持管理と防災に関する情報通信技術の現状と課題、今後の取組みについて俯瞰します。

13:30~13:40

主催者挨拶

先端科学技術推進機構 副機構長 棟安 実治

13:40~13:45

部門長挨拶

環境・エネルギー・社会(E)研究部門長 石垣 泰輔

13:45~14:45

基調講演

「先端的モニタリング技術を利用した社会インフラの維持管理」

環境都市工学部 特任教授 大西 有三

14:45~15:30

E研究部門講演

「社会インフラ(橋梁を中心に)の維持管理」

総合情報学部 教授 古田 均

休憩(10分)

15:40~15:45

部門長挨拶

情報・通信・電子(I)研究部門長 肥川 宏臣

15:45~16:45

I研究部門講演

「防災に貢献する新しい情報通信技術」

情報通信研究機構(NICT) 耐災害ICT研究センター 副センター長 熊谷 博

16:45~17:30

「突発的災害発生直後に機能する新たな緊急救命避難支援システム」

システム理工学部 准教授 和田 友孝

17:30~17:35

挨拶

先端科学技術推進機構 副機構長 棟安 実治

17:40~

交流会(無料)

<p>関西大学 環境都市工学部 特任教授 大西 有三</p>	<p>災害から我々の生活を守ってくれる社会インフラの老朽化は急速に進行しており、安全確保のための維持管理が充分かどうか懸念があります。これに対し、様々な方法、施策、アイデアが提案されており、具体的な実施例も多数あります。国交省も昨年末に社会インフラ・モニタリング委員会を立ち上げているので、それを踏まえ、モニタリングという方法を用いたトンネルや道路舗装に対する最近の先端技術の適用例を示し、ICTとの連携を含めた今後実行すべき施策について検討を行います。</p>
<p>関西大学 総合情報学部 教授 古田 均</p>	<p>現在、世界各国で社会基盤施設の維持管理が焦眉の課題となっています。既存施設は、橋梁一つをとっても非常に多くあり、それらすべてを健全な状態に維持していくことは、経済的、社会的、技術的に容易ではありません。周知のように、現在のわが国の経済状態では、潤沢な維持管理費用は期待できず、また一般に重要性の認識も明確ではありません。本講ではまず、わが国の社会インフラ、特に橋梁を中心として、その維持管理の現状と課題について述べます。次に、社会インフラのマネジメントの重要性について述べ、その概要を紹介いたします。そして、米国の維持管理を紹介し、現在注目されている長寿命化計画において重要な寿命の定義について述べ、最新の長寿命化技術を紹介し、最後に今後の維持管理の方向性について議論します。</p>
<p>情報通信研究機構(NICT) 耐災害ICT研究センター 副センター長 熊谷 博</p>	<p>防災・減災に役立つ情報通信技術として、災害監視のための計測・情報技術と災害情報を円滑に伝えるための情報伝達技術について、最近の研究成果を紹介いたします。災害監視のための新たな技術として、高い時間分解能や早い処理速度を備えたレーダが開発され、豪雨災害等の早期検出の可能性が生まれました。また災害の検出や災害対策の支援に有効な新しい情報技術としてSNSの活用が注目されています。情報伝達については、東日本大震災において、通信インフラの損壊、停電および通信の輻輳という問題により、通信機能が不全に陥ったことを教訓として、耐災害性の高い通信技術開発が取り組まれてきました。これらの成果を紹介するとともに、研究開発成果が社会で活用されるための活動を紹介します。</p>
<p>関西大学 システム理工学部 准教授 和田 友孝</p>	<p>火災、テロ、地震などの突発的災害発生直後には、人々は冷静な判断がとれず、災害の被害が拡大するおそれがあります。災害発生直後は、避難に必要な情報を即座に取得することが困難です。そこで災害発生直後1分以内の災害現場に居合わせた被災者らの行動を機械学習により分析する技術を述べます。携帯端末の加速度等のセンシングデータを端末間のアドホック通信を用いて交換・共有することにより、災害を自動検知して被災者の避難支援を行う、新たな緊急救命避難支援システムを紹介します。</p>

会場案内

関西大学 東京センター
東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー9階

JR
東京駅日本橋口隣接
東京メトロ
大手町駅B7出口直結

TEL:03(3211)1670
(9:00~17:00の間)



<入館方法>

1. サピアタワー3階のオフィスロビー総合受付もしくはセミナー特設受付にお越しください。
2. 受付で本チラシをご提示頂き「第47回研究部門別発表会」参加をお伝えください。
3. 受付が確認の上、「ゲストカード」を発行いたします。
4. 「ゲストカード」を使って、ゲートを通して入館してください。

<退館方法>

1. 3階のオフィスロビーから退館してください。
2. 「ゲストカード」はゲート横に設置してあるカード入れに返却してください。

申し込み・お問い合わせ

関西大学
先端科学技術推進機構

〒564-8680
大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL: 06 (6368) 1178
FAX: 06 (6368) 0080
E-mail: sentan@ml.kandai.jp
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/lecture/detail.php?i=346>

FAXまたはE-mailにて、3/7(金)までにお申し込み下さい。



FAX送信票

Fax: 06-6368-0080

関西大学 先端科学技術推進機構「第47回研究部門別発表会」担当者 行

会社・所属・役職			(ふりがな)	()
ご住所	〒 -			
電話番号	()	FAX番号		
E-Mail	@			
交流会参加	参加		不参加	

本セミナーの参加者は、建物への入館の関係上、お手数ですが、本チラシをご持参頂き、3階受付にてご提示願います。

■個人情報の取り扱いについて■

ご提供頂きました個人情報は、本セミナー開催に関する管理・連絡等のために使用するとともに、関西大学からの各種ご案内に使用させていただきます。